

## 国際スケート連盟コミュニケーション第2576号

（ISUコミュニケーション第1540号を更新し、即座に置き換える- I SUコミュニケーション第1540号と比較して追加及び／または変更点に下線が引かれている。（一部要約及び補足追加（日本スケート連盟））

### フィギュア・スケートー競技会中のジャッジの使用書類について

ISU 特別競技規則第 430 条第 f 項、および第 920 条第 f 項のとおり、

f, 役員は滑走された演技のみ基づいて採点および決定を行い、評判や過去の演技に影響されてはならない。さらに、役員が役員席にいる間は、携帯電話、タブレット、スマートウォッチなどの電子通信機器の電源は切っておかなければならない。

上記を踏まえ、ISU 理事会は ISU シングル&ペア・スケート、アイス・ダンス、シンクロナイズド・スケートイング技術委員会と協議の上、ISU 公認国際フィギュア・スケート競技会の役員に対する以下のガイドラインおよび指示を承認し、直ちに有効とした。

このガイドラインは、競技中にジャッジが役員席に持ち込む書類や資料の数を制限するために導入されたものである。また、レフェリーのためのガイドラインも含まれている。

ジャッジは種目開始の直前に「手控え」を受け取る。この「手控え」には、予定されているプログラムの内容、すなわちスケーターが演技をすると予想されるプログラムの要素が含まれている。

「手控え」に加えて、ジャッジはルール・ブック、出来栄え（GOE）とプログラム・コンポーネツのガイドラインが含まれる最新のISUコミュニケーション、減点／ボーナス判断の責任者と対処の表を各自の席に持っていくことができる。アイス・ダンスのパターン・ダンスについては、関連するダンス・パターンのコピーもジャッジスタンドに置くことができる。

「手控え」は、スケーター／カップル／チームごとに1枚ずつ用意され、ジャッジがスケーターの演技中に指摘事項を記入するためのものであり、電子／コンピューター採点システムが中断した場合の手動バックアップ・システムの基礎となるものである。ただし、ジャッジがメモを取ることができるのは、スケーターの演技中、採点送信までであり、採点送信後は行えない。

各ジャッジは、各スケーター／カップルの「ジャッジ・マーク・シート」を各ジャッジの席の横に置かれたボックスに入れなければならない。（補足：ボックスは無くし、手控えは卓上に置いておいて良くなりました）

ジャッジは、各要素の演技中、または遅くともその直後に、それぞれのスケーター／カップル／チームのGOEの得点を先にスクリーンに入力し（先に手控えに記入しない）、演技後のプログラム・コンポーネントの得点を直接スクリーンに入力すること。GOEの修正は、テクニカル・パネルのリプレイ中または決定後に行うことができる。

各スケーターの演技終了後、レフェリーに得点を確認される。

演技終了後のジャッジの見直し時間は限られており、最小限に留めなければならない。ジャッジの評価を最大限に効率化するために、各ジャッジは審査に必要な要素を迅速に判断する必要がある。

ジャッジが採点をレフェリーに「送信ボタン」で送信後、それ以上の変更は例外的な状況でのみ可能である。レフェリーは、競技の最初からジャッジ・パネルに指示を出し、競技の全体を通じてパネル全体に共通する一貫したスピードと動作のリズムを作り出し、遅いジャッジをパネルのスピードに誘導すべきである。

この手順は以下のように監視される：

\* レフェリーは、ジャッジが上記の許可された書類以外の書類を席に持ち込まないようにする。

電子採点システムに中断が生じた場合、レフェリーおよび/またはイベントマネージャーは、手動でのデータ入力のために必要なジャッジの手控えを入手し、保存及び変更点を決定する。

#### 各機能/団体の責任の概要

##### レフェリー

- a) ジャッジミーティングにおいて、ジャッジに詳細を説明する。
- b) ジャッジが各自の席に持っていく書類を決定する。
- c) 監督する。

##### ジャッジ

- a) レフェリーのガイドラインと決定を守ること。
- b) 各スケーターの演技終了後、手控えを自分のボックスに入れること。
- c) 各種目終了後、手控えを保管すること。